金木だより

発行所　金木町
印刷所　東奥日報社
印刷局
金木だよりは各世帯毎に一部ずつ無料配布いたしております。

東南アジア親善資金　黄色い羽根募金運動
期間は二月いっぱい

勤務時間（三月末日まで）
◇出勤時刻　午前八時四十五分
◇退勤時刻　午後四時
但し土曜日は午後零時三十分

サイレン時刻
◇朝　午前六時
◇昼　正　午
◇夕　午後五時

明年度予算編成方針決る

財政再建計画が基礎
総額六千万円前後

昨年六月一日、自治庁から地財法適用の再建団体として指定され、再建計画も近く原案通り承認される段階に至つた。町当局では三十一年度の最終的な追加更生予算案の編成とともに、目下明三十二年度の当初予算編成に着手しているが、政府および県などの予算編成上の指標に基いて慎重を期しており、このほど三十二年度の予算編成方針を次の通り発表した。

編成方針　①全般の経済動向は今後も好況を持続する傾向をみせており、明年度の税収入は、本年度より相当上回つたところの自然増のあることが予想されるが、自然増収のあつた場合は、もつぱら財政の健全化に使用するものとし、とりあえず地財法適用団体として、関係官庁と事前協議を完了した『財政再建計画』の年次総合計画に基いたところの年間予算を編成する（三十二年度の歳入、歳出とも、その総額は六千三百万円程度）
②国および県の予算編成方針その他行政上の諸施策および地方行財政制度の改正や、事情やむを得ない場合は、計画変更の承認を得て追加更正をする。

◇歳入　予算編成期前に増収の見通しがついても、政府の指示がなければ、あくまでも再建計画の示すところに従い編成する

◇歳出　歳出も再建計画に基いて編成するが、消費的経費は、さらに検討して節約を図る。

三十一年の最終予算
八千五百万円か
全額行使は徴税による

昨年暮から一月十一日まで開かれた第七回定例町議会で議決になつた追加更生予算額は三百十八万六千余円で現計予算総額は七千二百余万円であるが当町の財政再建計画が自治庁から認定されれば、その計画に基いた予算を編成することになり、その総額は滞納町税八七パーセントの収入を見込まねばならないので約八千五百万円という膨大な額になるのだが、『予算があつても金がない』という結果になるおそれがあるので、町当局では徴税成績の向上に躍起となつている。

総務課長の話＝町村合併後の徴税成績が五九パーセントと極端に悪いので、そのシワ寄せが本年度にきているわけです。財政の再建は、何をおいても町税の徴収成績にあるという政府の方針は、地方自治の根本をなすものであつて、いまさら申すまでもありませんが、自治庁から指示されている本年度の徴収率は、全国平均（九三%）より下回つた八七パーセントとなつているのですが、果してこの線までいけるかどうかが問題なのです。町長はじめ職員が、今全力をあげて、徴収にあたつていますが町発展の鍵は納税成績いかんによるということを町の皆様に自覚していただき、御協力願いたいと存じます。

旧正月に暖かい贈物
26日まで　たすけあい運動

金木町民生委員協議会並に社会福祉協議会では共同で、今年も〝困つている人々にもたのしい正月を〟というので、一月二十六日まで『旧正月たすけあい運動』を行うことになつた。

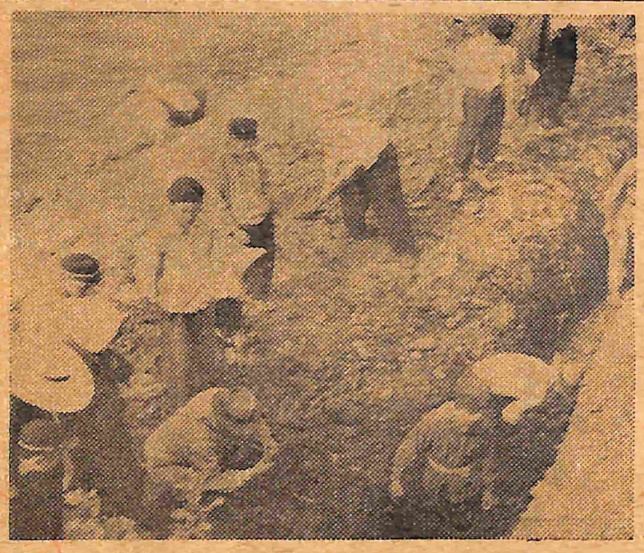
町内各地区の協力者が、近日中に各家庭をまわつて、金銭や物品を募ることになつているが、両協議会では何とぞ町民各位の暖かい御協力を要望している。

町政発展に尽力の年
＝年頭に当つて＝
金木町長　花田一

十年一昔と例えられていますが星霜の流れと社会の変化は激しく、戦後十二カ年の日本の歩んだ道は宇余曲折の過程を辿りながらも、国民はこの難をよく耐えしのび独立国家としての主権を回復し、誠に慶祝に堪えないと存ずるのであります。

わが金木町は合併して三年目を迎えるのでありますが、農業生産の増強と商工業の振興をもつて立町の基礎となし、町民福祉の施策と町民所得の向上を念じ、地方自治本来の目的を達成するよう、尽力いたしたいと存ずる次第でありますが、昭和三十二年は当町におきましても努力を要する年で、やらなければならないものはたくさんありますが、その主なものをあげれば、

①金木川局部改修　第四期工事（河幅一五米を三五米、長さ千五百米、工費六千万円による新川の開鑿工事である）
②金木―青森間の産業道路の新設（六千三百米、工費は本年度二千万円、この道路の完成により郡北の産業経済の開発におよぼす効果は、極めて大である）
③小田川上流ダムの建設事業（工費三億五千万円）
④集約酪農指定地の実現
⑤金木高等学校体育館建設による県立移管
⑥地下資源の開発（第一次産業だけに頼れない今日はこの問題は識者間において既に考えられているところであり、本年度において鉱区の設定上、町財政の苦しい中から若干の予算を計上してでも科学的調査に入りたい）
⑦再建計画による諸事業の実現などでありますが、これらの事業実現のためには、津島前知事をはじめ、町民各位の格別な御指導と御協力なくしては、実現はむずかしいと存じますので何とぞよろしくお願い申上げます。



あとしあと
1月10日まで

二十九日　町議会定例会
三十日　町議会定例会
三十一日　御用納
一日　新年名刺交換会
四日　御用始
十日　第七回町議会定例会（財政再建計画等八件）

農民大学を開設
照井、宮下（弘大）教授など

二月四日から七日まで町保育所で冬季農民大学を開設する。この地方としては初めての試みで町役場では多数の聴講（聴講料は無料）を望んでいる。なお講座の内容は次のとおり。

△水　稲（田中農事試験場長）
△気　象（柳谷青森測候所長）
△病　害（照井弘大教授）
△土と肥料（山下農試化学課長）
△リンゴ（福島同種術課長）
△畜　産（矢野種畜場長）
△農業経済（宮下弘大教授）
△農　政（山内東奥日報論説委員）

希望者は役場農林商工課に申し込みのこと。

世論調査に協力を
今後は三カ月に一回実施

町当局では今後三カ月に一回世論調査を実施し、町の行財政上の参考に資することになつた。世論調査の実施要領は次の通りである。

①本紙『金木だより』発行のその都度毎号『世論調査欄』を設ける
②世論調査欄は『切り取り線』でかこみ、その欄に所要事項を記入して提出すればよいようにする。
③提出者の氏名は記入しなくてもよいが、町名（または字名）、職業、男女別、年齢（満年齢）は必ず記入すること。
④提出者は原則として世帯主（またはこれに代つて世帯を代表する者）であること。
但し町当局で世論調査の対象となるべき者を指定する場合もあるので了承せられたい。
⑤提出先は次のとおり。
イ、役場および各支所の投書箱に投入のこと。
ロ、各町内の行政協力委員または自治振興会長あて。
⑥提出月日は『金木だより』発行の都度『世論調査欄』に示す。
⑦結果発表
調査した月から二カ月以内に本紙上に発表する。

実習生を募集中
開拓　北海道

北海道の開拓を志す青年に、北海道開拓営農の方法と農業生活様式を体得させ、入植後の定着と経営発展を図るとともに、開拓事業の推進に寄与させるため、本年度も次の要領によつて開拓実習生を募集することになつたので、希望者は役場へ申込まれたい。

役場での受付は25日まで

開拓実習生の制度　①第一部生＝道立拓殖実習場で開拓営農法に関する教習をうける。
②第二部生＝道立拓殖実習場において、学科の教習と、入殖予定地附近の委託農家において実習をうける。

応募資格　学歴は制限しないが新中卒業程度の学力を有し、満二十歳以上三十歳未満で開拓の熱意を有するもの。

実習場　十勝拓殖実習場、釧路拓殖実習場。

教習期間　昭和三十二年三月一日から、翌年二月末日までの一年間。

出願手続　願書三通に、身体検査書一通、戸籍謄本一通を添え、一月二十五日までに役場へ提出のこと。

選定および入場　出願者は一月下旬県の書類選定および面接選定を受け、二月上旬までに開拓実習生として北海道知事に推薦され、適当と認めた者に入場許可証を交付し、指定期日に県係官が引率入場させる。

経費　拓殖実習場における教習期間中は寄宿舎生活とし、賄費教材費若干を必要とするが舎費、授業料は徴収しない。

その他　入場すべき実習場はあらかじめ定つているので、希望者には県に照会して通知する。その他詳細は役場へ問合せのこと。

名勝、古跡めぐり（8）
大騒ぎした金木遺跡
素人考古学者に期待を

明大の杉原教授一行が来町して、ここを発掘したのは昭和二十八年七月。ここから旧石器時代（二～三十万年前）の石器らしいものが発見され、杉原教授は『金木遺跡』と命名し調査の結果を学界に発表し大さわぎしたものだ。『この場所から当時の人間が住んでいたという証拠品を町の皆さんで発見して下さい』と帰京したのだが……。

【写真＝左下しやがんでいるのが杉原教授凸版＝金木遺跡付近略図】

人口動態
昭和31年12月31日現在

区分		金木	嘉瀬	喜良市	計
世帯		1,486	841	533	2,860
人口		8,460	4,531	3,357	16,348
十二月中の異動	出生	14	2	7	23
	死亡	4	7	2	13
	転入	14	4	0	18
	転出	33	10	1	44
婚姻		12	5	8	25
離婚		—	—	—	—

人事異動
金木町第二保育所勤務（一月十日）
鈴木登美代

職場別職員数
（32・1・1現在）

◇役場本庁　五四名
◇嘉瀬支所　四名
◇喜良市支所　四名
◇第一保育所　五名
◇第二保育所　五名
◇教育委員会　三名
◇学校使丁　一三名
◇農業委員会
1、金木地区　二名
2、嘉瀬地区　二名
3、喜良市地区　二名
◇国保診療所　五名
◇消防団所　二名
計　一〇一名
（内臨時一三名）

お知らせ
成人式の記念講演
講師は前知事津島氏

来る十五日には本年度恒例の成人式を午後一時から金木小学校講堂で行うが、当日は前県知事津島文治氏の記念講演があるので一般の方も御遠慮なく参加されたい。

第7回定例町議会より

再建債二千百万円 財政再建計画など可決

消防団一元化の條例も

十二月に行われる第七回定例町議会は去る二十四日から二十八日までの会期予定で開かれたが〃財政再建計画〃をはじめ〃二十九年度決算〃や本年度追加更生予算、新消防条例などの八件を提出、重要案件だつたのと、年始の忙しい時期でもあつたので、会期は一月十一日まで延期された。提出された議案は昭和二十九年度新町の決算が審議未了のほかは原案通り可決されたが、本会議の模様を会議録からその主なものを拾つてみよう。

再建債有利に展開

県内金融機関と財政再建団体が過日再建債について協議した結果、公募債（市中銀行からの借入分）の利率が七分八厘―八分以内に決定の公算が多くなり、再建市町村を喜ばせている。

薪炭手当の支給決る

29年度新町の決算は未審

昭和二十九年度歳入歳出決算認定の件

昭和三十一年六月十四日招集の町議会に提案し、決算特別委員会において旧嘉瀬村及び喜良市村の分（特別会計喜良市国保決算を含む）はそれぞれ承認されたが、旧金木町及び新町三月分の決算については審議未了におわり廃案となつたので、再度提案した

昭和三十一年度歳入、歳出追加更正予算の件

今回の追加額は三百十八万六千余円であるが、特に承認いただきたいのは百七十六万六千八百八十一円の過年度補塡金の措置で、これは県および当町議会特別監査委員会からも指摘された通り、合併当時の出納事務の繁雑が原因し、旧嘉瀬、喜良市両村の赤字額の操作を誤つたもので甚だ遺憾ではあるが御了承願いたい。

その他主なものは新たに法律化された職員の薪炭手当、議会の研修費、新庁舎の備品などの経費である。

財政再建計画の件

十二月二十一日議員全員を招集して協議した件であるが、県地方課自治庁、大蔵省青森財務部との事前協議が終り、一応事務的には書類も完備し、議会の議決をまつて提出でき得る態勢になつている。

自力により再建するのが法の根本方針ではあるが、二十八、二十九年の不作を考慮し法の適用を受けることにしたもので、再建債二千百万円を八カ年の年次償還計画により赤字を解消する計画である。

歳入、歳出予算外義務負担承認の件

本件は二千百万円の再建債と関連あるもので、合併当時退職した職員の退職手当が、昭和二十九年度において支払義務の発生している分であるから、支払繰延額として再建債の対象に認められている関係上、確認議決が必要である。

起債及び償還方法の件

財政再建計画による再建債二千百万円の借入れ及び償還方法の議決を要するもの。

償還は年間、元利金三百九十四万三千円となつている。

職員の給與に関する條例一部改正の件

これは新たに法律化された職員の薪炭手当の支給についての一部改正で、世帯主には四千円、その他の者に千三百円をそれぞれ支給することになる。

消防條例制定の件

本件については早くから議員各位から要望されており、当町消防団を統合し経費の節減と指揮系統の一元化を図り、消防団本来の目的を達成したい念願から提案したもので、本条例の制定により早い時期に新しい金木町の消防団に改組したい方針である。

昭和二十九年度特別会計喜良市國民健康保險歳入、歳出決算認定の件

この件も六月十四日招集の町議会に提案し、決算特別委員会の承認は得たが審議未了廃案となつて今日に至つたものである。

【写真＝第七回定例議会における議場―一般質問】

一般質問

酪農を重点に救農

小田川ダム建設 地下資源の開発で産業振興を

【問】 新町建設五カ年計画（合併時）崩壊後の基本方針はどうなつているか。

【答】 新町の建設計画が崩壊したような質問であるが、私も町長立候補にあたり声を大にして叫んだのは事実である。国の方針に変化があつたといえば、おしかりをこうむるかも知れないが、今考えて見れば、われわれが、国のためにだまされたようなものだ。しかし三十一年度までの分では計画の八〇パーセントは実行されているはずだ。今後更に地財法の関係とにらみ合せ計画をねりなおしてばん回したい。

【問】 財産区管理会を設置する意向ありや。

【答】 今回この条例案を提案する予定であつたが、むしろ財産議会のままの方が（条例制定ずみ）部落の自主性を持つ、との世間のお話のようでもあるので、県とも打合せ研究の上ばつきりしたい考えでいるから、今少しお待ち願いたい。

【問】 地財法適用後の人員整理と事務の能率向上について。

【答】 現在臨時職員を入れて百二名、整理の最終年度で八十五名定数にする計画である。従つて十六名が整理の対象になるわけである。これによる町の経費節約は年間二百六十万円になる。しかし出来るだけ出血を見たくないのが私の念願である。なお臨時職員については合併直後でもあり、税の整理その他いろんな仕事の面で必要であり、本日に至つているが農業土木に関しては特に技術人の若い人を雇つて、どうにか効果をあげている。

【問】 救農対策と農協育成について。

【答】 農業振興はなんとしても農協を中心に考えたい。川倉農協はどうにかよいが、金木、嘉瀬は不振の状態にあり、このままでは再建がむずかしいのではないかと思う。

喜良市の再建は確定的であるが、農協育成については今後なるべく早い時期をみて、議会側、農協側と話し合い、振興策をたてたいと考えている。

救農対策としては、とくに酪農を重点的に考えていきたい。

これは単に、金木町の問題のみでなく、郡北全体の問題として研究したい。なお地下資源の開発による発展策も実現したい。

【問】 町道の整備について……。

【答】 町道の補修はかなり力を入れてやつてきたが、今後は三カ年計画を作り完全なものにしたい。

【問】 社会教育不振挽回策は？

【答】 社会教育の件では機会あるごとに教育委員会と話し合いの上振興させるつもりだ。明年度の予算編成に当つては何んとか努力したい。

【問】 町立学校の燃料を石炭に改めないか。

【答】 学校の燃料費は各部落、各学校の話を十分聞いた上で処置したい。

【問】 嘉瀬スキー場の整備をしてもらいたいが……。

【答】 嘉瀬のスキー場は大鰐に次ぐ場所なので、夏の観光地として更に整備したい考えである。

【問】 商工業の振興対策は？

【答】 商工振興対策については、商工会の幹部方と話合つて基本的な策をたてたいと考えている。

【問】 三千年度決算議会はいつ招集するか。

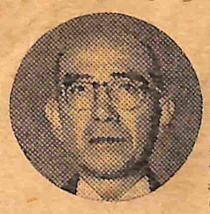
【答】 三千年度の決算議会は予算ときりはなして今年度内にやる予定だ。

【問】 小田川ダム建設の具体策はどうか。

【答】 小田川ダム建設の件は町全体としての問題で、適地を決定したのは最近であり、これに要する総工費は約三億五千万円と計算されている。これの実現によつて今後の産業振興は十分期待出来ると思う。

資源開発に期待

金木川改修で町が変る 教育施設の立派さに驚く



青森県知事 津島文治

新年の祝賀名刺交換会に招かれ久方ぶりに郷土の皆様と一同に会する機会に恵まれ、心からお祝い申上げ得ますことを喜んでいる次第です。

金木を留守にしてから約十年になりますが、こんど帰つていろいろ金木のことを眺めてみて、一番目についたことは……それは、昭和二十四年不幸にして金木小・中学校が焼失しましたが、町当局の努力により、それぞれ復旧されたことや、さらに藤田小学校、金木高等学校が新築され、また本日会場にあてられている保育所などの施設が立派になされていることなどであります。

私は知事就任中に、①資本の蓄積②青少年の教育③資源の開発の三つの政策をかかげたのでありますが、これはいずれも重要な問題であり、第一の『資本の蓄積』は本県の特異性から、産業振興上必要欠くべからざる要素で明日への生産計画を高め、世代の県政を担う青少年の教育を振興し、県百年の大計の基盤とせしめたいからなのであります。

この面から考えれば『金木の子供さん達』は非常に幸福だと思つています。

第三は『資源の開発』でありますが、本県は、第一次産業であるところの〃農業〃が、その八〇パーセントを占めている現況にあり、当金木町もやはり農業が主体となつており『農業の振興』には特に力をそそがねばならないことは当然ですが、それと同時に〃眠る地下資源と電源の開発〃に転換し、本県としても、工業県青森として大きく躍進しなければならない情勢にあると思うのであります。

町長の『年頭のことば』にもありましたように、町当局においては種々発展策を計画しているようですが『金木―青森間の産業道路の建設』と、『金木川の局部改修の継続工事』は町発展の重要な役割を果すことは申すまでもないでしょう。金木川の工事が完成したならば、金木の『町の形態』は一変するでしょうし、あの恐しい水害からも救われるのであります。

また『地下資源の開発』についても深い関心をよせられ、新年度には調査に入るという計画を承わり、注目に価するとともに力強さを感じております。

例えば南部地方は資源の開発により、該地方の経済界は活発となり、特に八戸市は十五万キロの火力発電により、東北地方として唯一の工業都市として躍進している現況にあります。

この意味において明年度から当地域の資源を化学的に基礎調査することは、誠に機に適した計画であると存じ敬意を表するとともに資源の化学的開発により『津軽地方の経済発展』は夢ではないと信ずるものであります。

以上申上げましたことは、新春の佳日にふさわしくないかもわかりませんが久方ぶりに郷土におちついた感想を申上げ新年のお祝いのことばと致します（新年名刺交換会の祝詞速記より）

【写真＝旧ひ病院跡】

私の願い

町立児童遊園地を

お金があればこの土地を買収して児童遊園地にしたいものです。夏はプランコ、砂場、滑り台シーソー、メリーゴーランド、そして野外演劇場や休憩所を設け、冬は、冬で小さい子供さん達の小スロープとすればどんなものでしょう。

さらに慾を申せば児童会館でもあれば……と私の夢は尽きません。

児童遊園地は公立のものであれば県や国の補助金が出ると聞いていますが町当局の皆様にも、場所は何処でもお任せいたしますから、子供達に〃よい遊び場所〃を与えて下さるようお願い申上げます。

（金木公・N生）

生活改善

木炭の上手な使い方

★木炭の質を考えて使うこと…硬炭は長時間一定温度でもえるから火もちはよいが立消えの欠点があります。

軟炭は反対に火つきがよく立消えの心配はほとんどありませんが、火もちが悪く時には焔をだして燃えてしまいます。従つて木炭の上手な使い方としては軟硬両炭をまぜて用い、それぞれの長所短所を生かすことです。

★木炭の大きさを適当に…木炭の大きさは燃焼速度に深い関係をもつもので大きいと燃焼面が少いから、燃え方が遅く、沸騰までに時間がかかりますが火もちはよくなります。余り小さいと燃焼面は大であるが通風が悪く、火つきもおそく、したがつてその初めは火力が比較的弱いけれども一旦着火すれば火力が大となつて湯わきも速くなります。コンロの木炭の大きさは卵の大きさが適当です。

★木炭は乾かして使うこと…一般に炭に水をかけると火持ちがよいとか炭のハネを防ぐ、と誤つた考えをもつていますが、しめつた木炭は熱利用上損です。

しめつた木炭は水分量で燃焼速度は遅くなりますが、同時に水が蒸発するため、それだけ熱量が減ることになります。

★コンロに入れる木炭量…木炭の燃焼利用熱はガスと違つて輻射熱ですから、その熱効果は熱源と加熱物との距離に関係します。炭をいつぱい入れて鍋の底にふれる時は不完全燃焼を起し易く、その損失量は大きいので、コンロに入れる炭の量は八分目が効果的です。

〈おことわり〉

○都合により『ちよつとお邪魔』『わが校の文化活動』は休載します。

○本紙十二月三十一日付の『人口動態』は、十一月中のものですからお許しのほどを。また『苦言』欄の中学校統合問題文中『馬生部落』は『更生部落』の誤りでしたからご了承下さい。

○『論壇』『母親相談室』はスペースの関係で割愛しました。

○第七回定例町議会でで可決された〃財政再建計画〃については、次号に詳細を掲載します。

○投稿や依頼した原稿はまだ残つていますが次号に掲載しますからお許しを。